

酒呑童子（弓場直彦）

もとは 越路の 寺の 稚児

名告り はなんと 外道丸

年 若くして 大酒を 好み

乱暴 沙汰の 限りなし

これを 妖魔に 魅入られて

ついに 鬼道の 王となる

されば

童形なれど 身の丈 八尺余寸

栗毛の 乱髪 緑の 眼

面 いささか 朱くして

鉤鼻 高く 鬚はなく

大口 あげば 舌長し

大格子縞の 織物に

巫女を 真似てか 緋の袴

傍を はなさぬ 鉄杖は

悟空 好みの 剛のもの

嵐の 如き 息づかい

兇兇しくも 威を 拂う

解説 酒呑童子を詠った詩。

出生 酒呑童子の出生は平安初期に越後国で生まれた。そして新潟県燕市の国上寺の稚児となった。美少年だったので多くの女性に恋文を貰ったが、貰った恋文を読みもせず全て焼いてしまったところ、想いを伝えられなかった女性の恋心が煙となって、彼の周りを取り囲み、その怨念によって鬼になったという。そして鬼となった彼は、本州を中心に各地の山々を転々とした後に、大江山に棲みついたという。

語釈 ※越路Ⅱ越の国へ行く道、北陸道の古称。

※稚児Ⅱ乳児をさすが、児童を含めて稚児といった。特別な意味を持つのは寺院の稚児で、雑用に従う少年のこと。※妖魔Ⅱばけもの。魔物。※鬼道Ⅱ鬼とは本来死者の靈魂、鬼神の世界を貫く原理法則を鬼道という。※童形Ⅱまだ結髪していない少年。稚児姿。

※八尺Ⅱ一尺は一呎の三十三分の十、なので約二呎四十二センチ。※鉤鼻Ⅱかぎのように鋭く曲がった鼻。

わしばな。※大格子縞Ⅱ碁盤の目のように縦横に筋を現わした模様。また、その織物。※巫女Ⅱ神子とも書く。神に奉仕する女性の総称。※鉄杖Ⅱ鉄で作った杖。鉄の棒。※兇兇Ⅱ人をきずつけること。悪者。※威Ⅱ人を恐れさせ従わせる強い勢い。

通釈 酒呑童子は越路の寺の稚児であった。その時の名は外道丸。年若くして大酒を好み、乱暴この上もなかった。この姿を妖魔に見初められ、遂に鬼の王となった。童顔で大きさは八尺余寸の大男。頭髪は栗毛で乱れていて、目は緑色、顔は赤く鼻は鷲鼻で髭はない。口を大きく開けるとその舌はとつともなく長い。衣装は大格子縞の巫女が着ているような緋の袴をはいている。手から放さない鉄杖は孫悟空が好みそうな固く重い。嵐のような息づかいで悪人らしく威厳を保つ鬼の王者だ。